



第6弾 自然界のスーパーハンター 生態系の頂点に立つ猛禽類の調査とは？

猛禽類とは・・・

くちばし
鋭い嘴と爪を持ち、他の動物を捕食する鳥の仲間を指します。昼間に行動するタカ類や夜間に行動するフクロウ類などが含まれますがいずれも生態系の頂点に立つ生きものです。クマタカの爪の大きさは人の指の長さほどあり、獲物を捕獲するときはこの爪で一気に内臓までえぐります。



生態系のピラミッド

今回お話を伺ったのは・・・



四電技術コンサルタント

三島 隆伸

山鳥坂ダム周辺地域の環境を保全するために一所懸命、調査を行っています。

普段あまり目にすることのない猛禽類たちを、どのように調査しているのでしょうか？

インタビュー記事はこちらから →→→



もう **猛禽類** の実態に迫る

1. 猛禽類とはどのような生き物ですか？

先程、猛禽類については紹介しましたが、ここでは普段はあまり見ることのないタカ類について紹介します。日本で確認されているタカ類は30種ほどいますが、こちらの地域では10種類程度が確認されており、5種類のタカ類の繁殖が確認されています。

天敵は私たちにも身近な「カラス」です。カラスはタカよりも体は小さいですが、かしこく社会性もあり、集団でタカ類を攻撃してきます。親鳥がいない間に、幼鳥がカラスに襲われることもあります。それから、特に森林に棲むタカは人が近づくことも嫌がります。

生態系のバランスが崩れてくると、ピラミッドの頂点に君臨する猛禽類は、食料が少なくなり、生息しづらくなってきます。このため、地域の生態系を見るための指標として、猛禽類を調査しています。



2.調査方法を教えてください。

猛禽類の調査は、見晴らしのよい地点から定点観測を行います。方法としては、8～15倍の双眼鏡を使って猛禽類を探し、見つけたら20～60倍の望遠鏡に切り替えて詳しく観察します。猛禽類を確認した場合、確認位置や飛翔している方向を他の地点の調査員に無線で伝達し、連携しながら林内への消失や、山を越えたかどうかなどを追跡し、飛翔ルートを地図に記録していきます。繁殖行動があった場合は営巣場所の特定も行い、そのつがいなどの地域を利用しているかというデータも収集していきます。巣の位置や地域利用実態が詳しく調査できていないと、適切な保全対策の検討ができないことから、とても重要な調査になります。



3.何人体制で調査しているのですか？

猛禽類の繁殖に合わせて1日当たり5人～9人程度、猛禽類の識別ができる調査員が1地点に一人ずつ入って調査をしています。

調査地域には計100地点ほど調査地点がありますが、猛禽類の出現状況に応じて地点を変えたりしながら、一日中観測を行います。

4.それぞれの個体を見分けるコツなどがありますか？

まず、種を見分けるコツからいいますが、体の色や模様、翼の形、尾の形、尾の長さ、初列風切り羽の分離枚数などの形態の違い、それから羽ばたき方なども参考にしながら見分けます。

次に、個体を見分けるコツですが、**羽根の細かな欠損情報**を継続的にみながら個体を見分けます。個体が識別

できるのは**クマタカ**ですが、クマタカは外側の羽が生え替わるのに2～3年かかると言われています。

羽は3月～9月頃にかけて各ユニットごとに順番に生え替わっていくので、それも個体を識別するひとつの情報となります。

ユニットごとに
順番に生え替わる。

22～23枚

22～23枚

12枚

羽が抜けない時期には、細かな羽の折れやカケを確認して識別しているんだって！

森の王者
クマタカ

そのため、良い双眼鏡や望遠鏡、撮影機材などが必要になります。

5.使用する望遠鏡やカメラなどの機材は1台あたりいくらぐらいしますか？



双眼鏡、望遠鏡ともに20～30万円、カメラとレンズは合計100万円程度のものを使用しています。それから、意外と高いのが**三脚**です。三脚や運台はブレを防ぐ道具ですが、「ねじれない」というのが非常に大事な要素になります。遠くのを観察しているときに少しでも三脚がねじれてしまうと、対象を逃してしまうのでとても重要です。重要な地点では100万円以上のものを使用しています。



6.山の中での調査になるとと思いますが、危ない経験をされたことはありますか？

山を歩いている時、マムシやスズメバチがいるとヒヤヒヤしますね。また、長袖の作業服を着ていてもケムシやウルシなどにかぶれることがあります。そういう時は1～2週間ほどつらいですね。対策としては長靴を履いたり、毒を吸い出す機器、抗アレルギー剤などを持ち歩いているのですが、それでも細心の注意を払って調査しています。

あと、冬場に上流側の地域では雪が積もっている時があります。車のスリップや歩行中の転倒などに気を付けています。



7.毎年、岩谷の夜神楽で河辺川の生物展示にご協力いただいておりますが、猛禽類以外にもめずらしい生き物などはいませんか？



猛禽類以外の鳥類では、ヤイロチョウやミゾゴイ、ヤマセミなどが生息しています。ヤイロチョウは、東南アジアからの渡り鳥で夏に北上してきます。日本では、四国の南西部、九州の南部などにやってくるのですが、林内で生息しているため姿を見つけることは難しく、特徴的な声で渡来が確認できます。

ヤイロチョウの特徴

- ・ 5月下旬頃からやってくる
- ・ 体長はスズメより少し大きく、しっぽが短い
- ・ 主に西日本の暖かい地域にいる
- ・ 八色鳥の名前のおり、「焦茶色」「黒色」「黄色」「オリーブ色」「空色」「白色」「黄褐色」「紅色」の八色の羽色を持っている。

ホヘン、
ホヘン



他に河辺川が誇れる生き物といえば、ゲンジボウシ！河辺川の上流では毎年「ホウシ祭り」が行われているよ。

8.調査をしていて一番うれしい瞬間はどんな時ですか？

調査のなかで、無事に繁殖を見届けられた瞬間が一番うれしいです。特にクマタカにもなると、求愛・巣作りから雛が巣立つまで約5か月以上（2月～7月）かかります（普通のタカ類は2～3ヵ月程度）。巣立つ前には、羽ばたく練習をさせたり、餌をわざと遠くに置いて巢の外に出るように仕向けたりします。長い期間、定期的に繁殖の進行状況を確認していますので、無事に巣立ってくれた時が一番うれしいです。営巣の状況を確認するときはオス、メス共に巣から出たのを確認してから短時間で行います。警戒声を聞き分け、細心の注意を払い調査するそうです。特にメスは、怒らせたら大変なことになるので・・・継続して観察している分、繁殖に失敗した時はこちらもつらいですし、タカたちが落ち込むのが分かります。

クマタカの繁殖

求愛・巣作り

抱卵（約50日）

孵化～巣立ち（約70日）

約5ヵ月



9.また、どんなところに苦労されますか？

工事をしている近くで新たに営巣がないかどうか確認するのですが、ダムの予定地周辺は急峻で複雑な地形が多いので、見落としのないように調査を進めていくのに苦労します。タカ類は、繁殖に失敗するなどして嫌な経験をすると、同じ巢に戻ってこず、違う場所に行ってしまうこともあります。また、猛禽類はすごく目がいいので、ブラインドなどを使用して観察していても警戒することもあります。なのでできるだけ遠くから観察して、刺激しないように気をつけています。



1～2kmは離れて観察するそうです

10.最後に地域のみなさまへ一言お願いします。

このダム事業は、生態系に配慮しながら進められる事業です。これから工事が進んでいきますが、この地域の**生態系や身近な生き物の保全**のために精度の高い調査を行い、それから最終的には地域のために、事業を通じてお役に立ちたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

あとがき

普段目にする事のない猛禽類たちですが、生態系の頂点にたつ生き物と聞いてものすごくどう猛だと思っていました。今回のインタビューで実際の調査方法を教えていただき、**猛**禽類がいかにデリケートで、そしていかに刺激しないように気を遣われているかを知ることが出来ました。地面を歩くほ乳類と違って、飛翔できる**鳥**類は、その場所が気に入らなければすぐに立ち去るそうです。見た目に豊かな森でも、もし野鳥がいなくなれば生態系のバランスがおかしいといわれるほど、鳥類はとても大事な指標になっています。調査を行っている山鳥坂周辺の地域では、いくつかの猛禽類たちの**営巣**も確認されており、この地域の森の食物連鎖は保たれているんだということも教えてもらいました。しかし、これだけ神経質な猛禽類たちを刺激しないよう1日中観測し、**保**全の対象となるデータを収集することは**耐**力が必要です。一見あまり関係がないように思われる生態調査も、このように深く知っていくと私たちにとってとても大切な存在なのだとなり、そしてそれを教えてくれる三島さんのような調査員の方たちがいらっしゃることをご紹介することができて、とても**有**意義なインタビューとなりました。将来、猛禽類たちの**住**処をなくさないように私たちも気をつけなければいけません。



インタビュー現場からは雲海が望めました。

※掲載している写真及び画像は、山鳥坂地区周辺で撮影されたものとは限りません。